

15th
ANNIVERSARY

過去に敬意を。
未来に意志を。

KIT HISTORY M A N G A

STORY 15. 実務者トレーニングそして製品開発へ

16年2月
IBM Watson
日本語版の
熟知者を迎え

木村情報技術の
エンジニアが実務者
トレーニングを重ねた

なるほど
そう考えるのか！

そうか！
そういうやり方も
あるのか！

エキスパート級の方
自らが経験して得た知見を
共有してもらえた

日本IBMから
やってきた講師は
いずれも第一線で
活躍されている
エンジニアである



実務者
トレーニングは
いかがですか？

手ごたえは？



はい！
さすが誰もが知る
大企業のWatson
プロジェクトを
担当するレベルの
エンジニアの方々です…

うん
うん

マニュアルを読んで
使っただけでは
まず行きつくのは
難しいと思われる
知見を教えてください



橋爪さんの
言った通り
まさに時間を
買えている
ようですね

そうですね
Watsonを活用する
という面で確実に
他のパートナー企業より
一歩先んじたという
感触がありますね



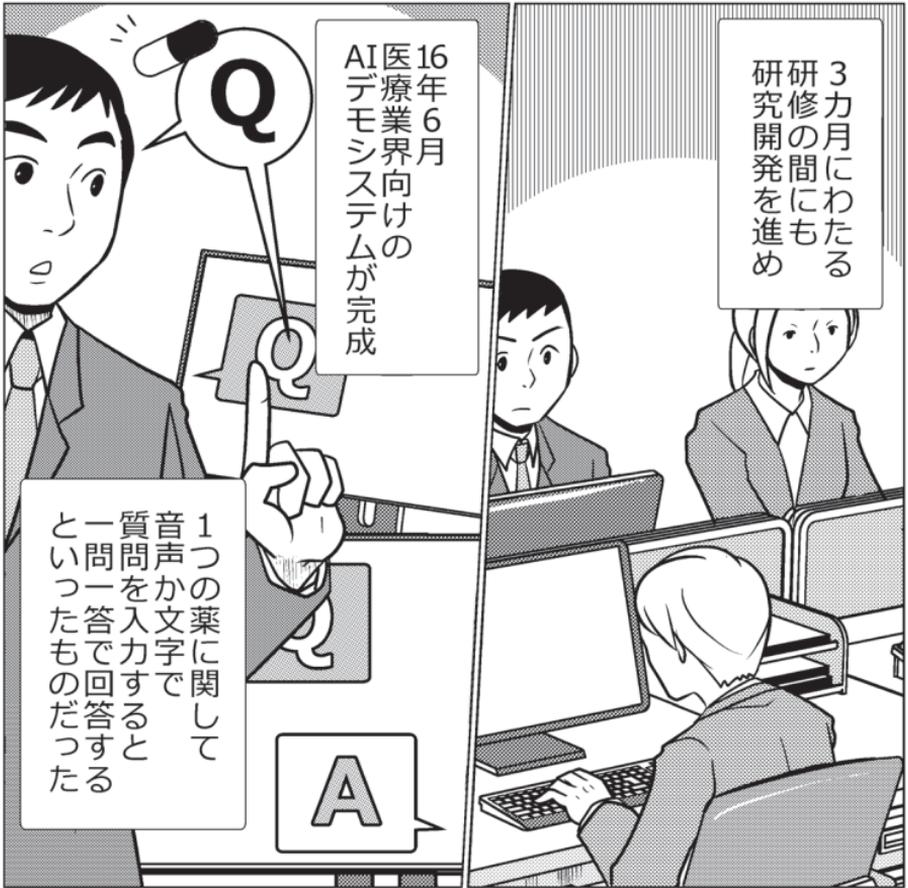
IBM Watson
日本語版がリリースされた
当時だったからこそ
このようなエキスパートから
直接指導してもらったことができた

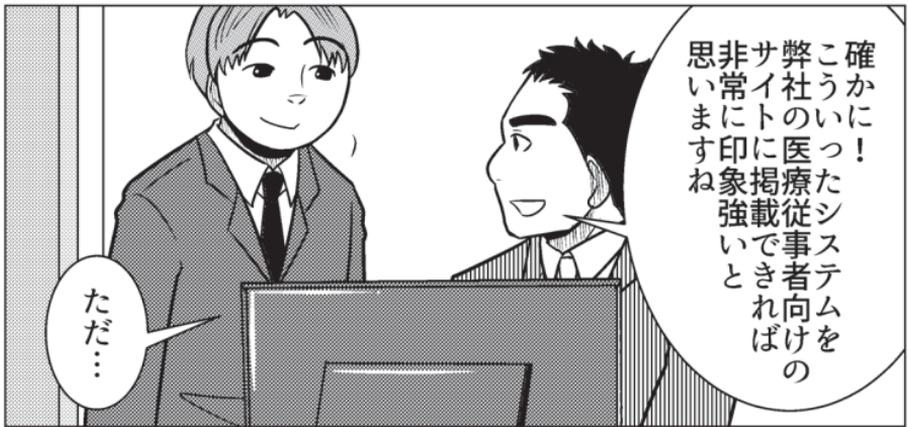


事実
数か月後には
彼らは引つ張りだ
でお金を積んでも
派遣してもらった
できない状態に
なっていた



これもやはり
木村のスピーディな決断から
得られたことであつた





確かに！
こういつたシステムを
弊社の医療従事者向けの
サイトに掲載できれば
非常に印象強いと
思いますね

ただ…



デモは
うまくいっても
ウチのサイト内で
うまく動くか？

製薬

大丈夫かな？

弊社の薬でも
同じように
回答ができるものか…

ちよんくたぬ



サイトで公開して
とんでもない回答を
されると問題に…

ベランダ

●◎薬品株式会社

16年当時
まだまだAIは未知のもの
各社の不安は尽きなかった

なかなか
受け入れて
もらえませんか…

確かに…
命に直結する
薬の情報提供
ですからね…

製薬会社としては
慎重に
ならざるを得ない…

なかなかすぐに
対外的に使うのは
難しいですね…



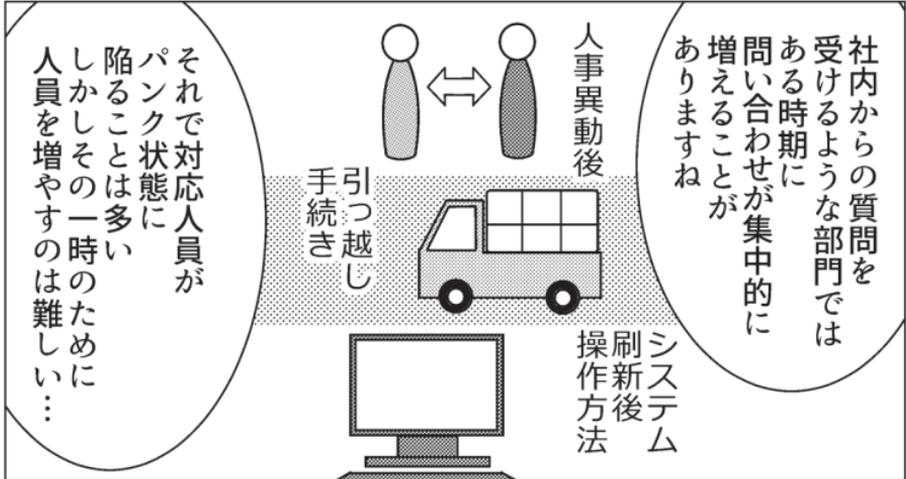
対外的
…はっ!

社内用…AI?

はい先ずはAIが
どういうものかを
知ってもらうために
社内の困りごとに
答えるAIを実装しては
どうかと!

対内…
先ずは社内的に
使ってもらう
というのは
どうでしょう?

おお!
なるほど
確かに!



社内からの質問を受けるような部門ではある時期に問い合わせが集中的に増えることがありますね

人事異動後

引越し
手続き

システム
刷新後
操作方法

それで対応人員が
パニック状態に
陥ることは多い
しかしその一時のために
人員を増やすのは難しい！



チャットボットなら
これらをカバーできる
可能性が高い！

こういった
問い合わせは製薬会社に
限らず全ての
企業で起こり得る！

社内の
問い合わせが
集まる…

まずは総務と
IT部門から
試験導入です！

これが木村情報技術の
汎用AIパッケージ第一号
AIIQ開発の
きっかけとなった